

令和8年度 文教常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和8年7月9日（木） 10時30分～12時00分		
視 察 先	愛知県岡崎市 岡崎市立翔南中学校	人口	約38万人
		面積	387.20km ²
担 当 職 員 等	翔南中学校長、学校指導課 指導主事 学校指導課児童生徒支援係長 教育相談センター所長補佐		
視 察 内 容	校内フリースクール「F組」の取り組みについて		
視 察 目 的	不登校児童生徒の増加が、全国的な課題であるが、榑原市でも同様である。その為、本市では昨年度「不登校対策基本方針」を策定し、その中で令和8年度中に全校へ「校内サポートルーム」を設置するとしている。これは、クラスに入りにくさを抱えている子どもの居場所であるが、まだ人材や制度面での充実はこれからである。 先進地として、すでに全国的にも知られている岡崎市の「F組」の取り組みを視察し、本市での取り組みのチェックやさらなる充実に向けた提案に繋げていく目的で視察を行った。		
調 査 概 要	【校内フリースクール「F組」の概要】 令和2年度に中学校3校に設置され、令和5年度に市内のすべての中学校である20校に配置。現在は小学校全47校中『6校にも設置されている。 「F組」の「F」は「Free（自由）、Fit（みんなに合う）、Fun（楽しい）、Future（未来）」の頭文字をとったもの。学校生活に困り感があったり、クラスでの学びに馴染めない、長期欠席傾向のある子などの「個別最適な学びの場」として運営されている。 （岡崎市では、不登校を「長期欠席」と呼んでおり、以下それに統一して表記する） 【F組の理念】 ① 適応するのは子供ではなく学校である ② 多様性を受け入れる学級にする ③ いつでも温かく迎える体制を整える ④ 通常学級と同じ、1つの学級として扱う ⑤ 教室復帰ではなく、社会的自立を目指す これまでは「適応指導教室」といった名称は「適応できていない生徒を指導する」といった目線にたった名称だった。それにより、在籍学級から適応指導教室へ移行することで「適応できなかった」という烙印が押され「（在籍学級から）落ちた」という感覚を、教員や児童生徒、保護者に与えていた。 F組の理念では、生徒は在籍学級からF組へ「平行移動」する感覚で、気が向いた時に利用できるようにしたことで長期欠席を防ぎ、段差がないからこそ、在籍学級にも戻りやすくしている。 また、この理念はF組だけでなく全学級に浸透させることで、より様々な生徒が在籍学級で過ごせるようになり、長期欠席の未然防止にも繋がっている。		

令和8年度 文教常任委員会 行政視察報告書

【設置場所】

- ・校内の「一番良い場所」に設置されている。これは、F組担任以外の、様々な教員が空き時間に顔を出しやすい場所という意味もある。
- ・また、くつろげる空間になることも意識されており、視察した翔南中学校では、和室に設置されていた。

【開室時間・時間割など】

- ・開室時間は中学校の授業時間帯と同じ。しかし、登校時間は生徒によって異なる。
- ・一昨年度までは時間割が組まれていたが、現在は1日のスケジュールや学習内容は自分で立てることになっている。自分で立てるのが難しい生徒にも「自分で立てた」と感じられるような選択肢を提示するなどの対応をしている。学習は、タブレットの教材を使うほか、在籍クラスの授業をオンラインで受けている生徒もいる。

【職員の配置】

- ・F組の担任（教員の定数内の中で配置）と支援員（資格は不要・市費での配置）の2人で主に運用している。
- ほか、翔南中学校では4人の教員補助者（市費）も積極的に関わっている。

【F組での過ごし方や活動】

- ・学びは個別もしくは少人数で行っている
- ・学習以外では、ボードゲームなど、仲間との交流を広げる活動も行っている。人との関わり方が苦手な生徒もいるが、ゲームを通して関わり方を学ぶことも多い。
- ・保育園などで園児と交流したり、イベントでの出展などで、自発的に人と関わることを学んでいる。他者から認められたり役にたったと感じられることで、生徒の成長や社会参加につながっている。
- ・翔南中学校では、運動会のアナウンス係をF組生徒が担当したり、地域からの講師による体験活動も行っている。
- ・視察当日は「さくらカフェ」というイベントを行っており、生徒が教員や来訪者に向けて飲み物やかき氷を提供していた。
- ・F組以外に「S組」という取り組みも行っており、夕方であれば登校できる生徒やなかなか家から出られない生徒向けに、週に1回2時間程度の居場所も作っている。

【利用者上限数】

特に設けていない

【市内の他の類似施設】

- ・本市の「虹の広場」のような、市内児童生徒が集まって利用する教育支援センターはなく、ほぼF組など校内での居場所が役割を担っている。
- ・民間のフリースクールも存在しているが、利用料金もかかるため、F組設置後は民間フリースクール利用者は減ってきている。

令和8年度 文教常任委員会 行政視察報告書

	【予算】 翔南中学校の場合 人件費 F組支援員 1336 円×5 時間×週 5 回 S組支援員 1661 円×2 時間×週 1 回 設備費（開設当初のイニシャルコスト） ビーンズテーブル 42,900 円× 2 談話チェア 8,100 円× 5 パーティション 29,200 円× 4 3 人掛けソファ 122,800 円 イニシャルコスト合計 365,900 円 【数で見える効果】 ・今回の視察外で示されている資料のデータであるが、設置した学校の、設置前・設置後の長期欠席者を比較すると、設置後に長期欠席者の減少が見られるなど、設置の効果がみられる。 ・翔南中学校でのデータは、センシティブな内容にも関わる為、具体的な人数の推移などの添付は控えるが、令和6年から令和7年には減少に転じるなどの効果が見られている。 また、岡崎市の独自調査で、一人ひとりの「週あたりの登校状況」や「前月との比較した状況」などをデータ化している。長期欠席者がF組に登校するようになり、学級への復帰を果たすなどの状況が見える化されており、個別の対応に役立てられている。
所 感	岡崎市のF組の取り組みは、報道もされており、全国的に注目されている。 一番感銘を受けたのは、まずF組の理念がしっかりとしている、ということだ。 公立学校としてここまではっきりと「学校が子どもに適応する」という考えを打ち出しているのは、珍しいのではないかと感じた。 「甘やかしといった声に対する対応は」「保護者の反応は」といった質問には「理念が浸透することで、甘やかしではなく、子どもの個性と捉えて接してもらえるようになってきている」「F組の保護者は感謝されており、それ以外の保護者も概ね賛成している」とのことだった。 F組を始めるにあたって難しかったことを質問したところ「理念の浸透」を挙げられており、そのためにも、最初は3校から初めて徐々に浸透させていくことがよかったとのこと。最初から20校同時に始めた場合、理念の浸透は疎かになったのではないかと、とのことだった。 また、理念を浸透させる為ためにも、F組の担任から理念が波及していくことを狙って、学校の中でも核になるエース級の教員を配置しているということだった。 実際に、校内を視察する際には、元翔南中学校のF組担任だった指導主事の方の案内を受けたが、久々に会った生徒が湧く様子が見られ、生徒からも慕われていることを感じた。 そのような教員をF組担任に配置するということに、岡崎市のこの問題への思い入れを感じた。 また、実際のF組も見学させていただいた。視察当日は「さくらカフェ」と称して、生徒が教員や来訪者に対してかき氷などを振る舞ってい

令和8年度 文教常任委員会 行政視察報告書

	て、視察した委員ももてなしを受けた。F組担任や支援員が終始明るく、笑顔で対応しているのが印象的だった。 今後の課題を伺ったところ「長期欠席がゼロではないので、通常の授業の中でも満足感が得られるようにすること」とのこと。 また、小学校では6校に設置はされているが、小学校は教科担任制ではないため、教員の配置や学び方の問題からも開設が難しいとのこと。特に規模の小さい学校では難しいので、現在設置されている学校は600人規模の学校とのことだった。 岡崎市では、F組、ひいては学校全体についての大きな理念があり、その実現に向けてエース級の教員を配置するなど、単なる「長期欠席者への個別対応」を超えた、教育の在り方全体についての方針があると感じた。 本市の「サポートルーム」が、どのような機能をもった居場所になっているか、児童生徒の反応はどうかなど、今後議会での説明が待たれるところだが、「サポートルーム」を活用しつつも、在籍学級でも受け入れられるような教育のあり方について、同時に議論が必要だと考える。
--	--